

令和5年度 教科・分掌・学年等の具体的目標と方策及び課題

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況（具体的に）	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上に努める。	教科書および文法書、便覧等を活用し、古典についての基本的な知識を身につけさせる。	紙媒体の教材に加えてデジタル教材も利用し、また小テストにより習熟度を見極めながら、古典についての基本的な知識を身につけさせることができた。	A	A (1) 継続的な基礎学力の定着。 (2) 新課程の共通テストを見据えて、新傾向対策の方策を検討する。 (3) 生徒のタブレット活用を含むICTの利活用の方法の検討及び定着の推進。 (4) 小論文指導を含むアウトプットの指導を、学校としてどのように系統立てて行うか。
		教科書および参考書等を活し、読解に必要な概念や語彙を身につけさせる。	紙媒体の教材に加え、画像・映像等をITを活用して紹介し、読解に必要な概念や語彙を身につけさせることができた。	A	
	受験に対応できる学力を涵養する。	授業内容を精選し、論理的思考力に裏付けられた応用力を身につけ、多様化する入試に対応する力を培う。	多様な分野の文章に触れさせ、要約・記述等の演習を行い、入試に対応する力の育成を図った。	A	
		新傾向に対応した問題演習を反復し、ICTを活用しながら実践的な国語力を伸ばす。	問題集等を活用し、新傾向に対応した演習を繰り返し行った。ICTによる双方向の活用は不十分であった。	B	
	小論文を書く力を育成する。	様々な言語活動をおとして、実社会において役立つ表現力を養う。	自分の意見を文章化させたり、個人・グループによるプレゼンテーションを行わせたりして、表現力の涵養に努めた。	B	
		様々な文章を批判的に読むことで、思考力を養う。	意見文の作成やグループでの意見交換など、筆者の思考を読みとるだけでなく、様々なとらえ方や考え方があることを、授業で理解させることができた。	A	
家庭学習習慣の定着を図る。	論理的な思考をもとに、的確に表現する方法を身に着けさせる。	小論文模試等を活用すると共に、日常の授業でも「書く力」を意識させた。	A		
地歴公民	学力の向上を図る。	自学に対応した課題を実施し、物事を深く探求する力を養う。	毎週末取り組ませる課題を精選し、自学による探究心を養った。	A	A (1) 次年度は新課程の完成年度にあたる。まずは現状で、課題などが見つかった科目については検討を加えて、次年度の新学年から修正して新規に行えるようにしたい。 (2) 既習事項については残された学年で軌道修正を図りつつ、目標を達成できるように進めていきたい。現状では授業時間確保や進度の改善などが最大の課題であると考えている。 (3) 旧課程と比して、新課程は「主体的」に学びを展開する分、学習活動に費やす時間は増大すると考えられる。より厳密な授業内容の精選が求められると考える。特に入試に向けた学力の向上については、他教科も含めて研鑽が必要と考える。 (4) ICT化の課題については、国全体を視野に入れた小中高全体の学習活動とリンクしている問題なので、毎日の授業レベルでの小さい課題から教科を超えての課題など多くの解決すべき課題があると思われる。地道に日々の課題をこなしながら、5年後・10年後を見据えた検討が必要と考える。
		受験学力養成のため定期試験を工夫し、解説を通して理解を深めさせる。また、職員自らが受験問題にあたり、傾向や難易度を把握する。	新課程2年目にあたり、来年実施される予定の新科目入試も含めて、各教科で受験学力養成のため定期試験の工夫をした。新観点の評価方法を反映した学習活動を展開できるように努力した。また、職員自らが受験問題にあたり、傾向や難易度を把握するよう努めた。	A	
	生徒の希望や状況に応じた課題を示し、ICTを活用しながら個別の指導を行う。	クラスルームでの双方向の課題提示や、毎時、電子黒板を使用しての授業を行うことにより、積極的にICTを活用する取り組みを行った。	A		
	家庭学習習慣の定着を図る。	効果的な課題提示を工夫・実践し、家庭学習の定着を図る。	各教科とバランスをとりながら、適切な量の課題を設定して、生徒に課すことができた。効果的な家庭学習計画を指示、また生徒自身に考えさせるなど、双方向の展開も展望することができた。	A	
現代社会の諸問題との関連性を考えさせる。	資料やデータを多角的に分析して、視野の拡大や異なる考えに対する柔軟性を涵養する。	今年度から新設された「公共」を中心に、他科目も含めて現代社会の諸問題を考察する視野を養成することに努めた。多角的な視点で物事を考察できるように、資料の精選を行った。今後も常に継続的に行うべき課題である。	A		

	現代社会の諸問題との関連性を考えさせる。	主権者教育を授業の中に取り入れ、生徒の主体的、実践的態度を育成する。	租税や選挙制度、法律など多く問題を授業を通じて考えることができた。主に「公共」や「現代社会」の授業が中心であるが、積極的に他科目でも関連する場面を設定し、主体的な態度を育成することに努めた。	A		
数 学	学力の向上。(基礎・基本的な知識・技能の確実な修得/思考力・応用力の育成)	生徒の実態に応じた指導計画と指導内容・方法の工夫改善を図る。	新課程への移行でまだ情報が少ないが、数学Cの取り扱いなど教科内での改善が見られた。	A	A	(1) 数学Cの取り扱いなど次年度以降も教育課程を含めた改善が必要である。 (2) 各学年で作成したICT教材を教員間で利用できるように共有を図っていききたい。 (3) 課題の評価を今後も検討・研究していききたい。
		教科書準拠問題集や小テスト等を活用して、基礎・基本の確実な定着を図る。	課題提出等実施できた。	A		
		問題演習の時間を十分に確保し、入試問題に対応できる論理的思考力・応用力を涵養する。	課題や定期テストにおいて論理的思考力を試すもんだに取り組みることができた。	A		
		課外(早朝・放課後)や添削等を実施し、個に応じた指導・支援の充実を図る。	計画通り実施することができた。	A		
	表現力・論理力の育成。	言語環境を整え、ICTを活用しながら活動の充実を図る。	Geogbraなどの授業内での利用機会が増加した。	B		
家庭学習習慣の確立。	定期的に課題の提出を課すとともに、点検及び事後指導を徹底する。	毎週の課題を課すことができた。	B			
理 科	学力の向上。	基礎的な知識を確実に習得し、さらに応用的な内容についてもしっかりと理解できるような授業を展開し、学力向上を図る。	映像やシミュレーションも用いながら基本的なイメージの定着を図った。また、ペアやグループでの言語活動により、学び合いによる学力の底上げを図った。	A	A	(1) 次年度も生徒の興味関心及び理解度の向上を目指して実験・観察を積極的に行っていききたい。しかし、実験・観察を行うにあたり、操作の意味や考察をさせる部分に課題が残る。意味が分からず指示された操作をするだけにならないような方法を工夫したい。 (2) 授業中での言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育成し、自ら考える姿勢と基礎学力の定着を図る。
	実験・観察を通して自然に対する関心や探究心を高める。	共通テストや個別試験等に出题された実験内容を、各科目で検討して考察方法などを理解させるとともに、授業内での実験・観察を通して自然観を身につけさせる。	積極的に実験・観察を行った。実施件数が大幅に増加し、生徒たちが現象と出会う場面が多くなり、探究心を高めることができた。	A		
	家庭学習の習慣化。	定期的な課題を提供し、自学自習による課題提出を通して、ICTを活用しながら家庭学習の習慣化を図る。	課題は、精選しつつ十分なものとなるように課し、また、Libryやgoogle formsなども用いて家庭学習の習慣化を図った。	A		
	入試制度の研究。	共通テストに対応できる学力を身につけさせるために、入試制度の研究を進める。	模試の分析や積極的な情報交換を行った。	A		
科 保 健 体 育	健康安全について理解を深め日常生活で生かせるようにする。	ICTを活用した視聴覚教材・資料等を効果的に活用し、学習の理解度を高める。	保健ではスライドや視聴覚教材を利用して、興味関心を高め、理解を促進した。	A	A	(1) 次年度も生徒の興味関心や理解度を深めるために、ICTを活用する。 (2) グループワークを通じて、知識を活用し思考力、判断力を高め、他者と協力することで集団としての達成感を味わわせる。 (3) 体力テストにおいて自己の体力を確認し、保健や体育の授業や他教科の分野などの知識を活用して、生徒自身が体力を高める方法がわかり、計画、実践できるようにする。 (4) 技能を伸ばすことで自尊感情を育て、積極的に関わろうとする態度を育てる。 (5) ICTを活用して、自ら調べたり、修正に活用したり、発表ができるようにする。
	体力の向上を図る。	体力テストの結果から自己の体力を把握させ、体力の向上を目指し年間を通して継続的に体力トレーニングを行う。	体力テストの結果としてAの割合が減ったが、3年生では砂を入れた影響がある50m走の結果以外は伸びた。高校生活で体力を向上して活動の基盤を作ることが出来ている。			
	運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	基礎的スキルを学ぶなかで課題を設定させ、練習に取り組みゲームを楽しむ。	ICTを活用するなど、お互いに教えあう活動を取り入れ、助け合いながら運動技能向上を図る。	体育科全体で設定したスキルテストに取り組むことで技術を伸ばしつつ、ゲームでの活用を方法を学び仲間と協力する楽しさを味わうことができた。 動きを動画やデータを活用して理解を深めたり、ダンスでは動画で撮影し、修正するなどの活動を通じて協力することや技能の向上に効果があった。		

芸術	学びの意義を実感できる学習活動の充実。	美的情操を培う各科目における教材、指導方法の精選。	どの教科においても生徒の状況に合わせた教材・指導方法を工夫し行うことができた。芸術として各科目をとらえ美しい表現を考える学習活動ができた。	A	A	<p>(1) 来年度も鑑賞に言語活動を取り入れ、よりよい表現方法につながるよう考える授業展開・指導方法をさらに工夫していく。</p> <p>(2) ICTをどのような場面で取り入れたほうが効率が良いかを考え、よりよい指導方法を研究していく。</p>
	表現と鑑賞の能力を高める。	ICTを活用しながら鑑賞授業を充実させ、鑑賞で得た知識を表現に生かし有機的に関連付けながら、両面の学習活動を進行し、芸術表現に必要な技能を身に付けさせる。	鑑賞授業にICT活用を取り入れ、鑑賞活動を活発にし、生徒の表現に生かす学習活動ができた。鑑賞活動から芸術表現に繋げる技能を身につけさせる学習展開ができた。	A		
	芸術的感性と言語能力の向上。	生徒同士で積極的に意見を交換する場面を設定し、活発な言語活動を行う。感性を高めあい、お互いに創意工夫しよりよいものを創る姿勢を育む。	鑑賞活動を中心に積極的に意見を交換する場面を設定することができた。言語活動を行うことでよりよいものを作る姿勢がみられた。	A		
英語	4技能の習得を図りながら学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた指導計画の改善と工夫を図る。	ペアワークやグループワークなどの活動を導入し、お互いに学び合う環境を作ることができた。	A	A	<p>(1) 言語活動をさらに充実させ、英語を「使いながら身につける」ことを実践していきたい。</p> <p>(2) ICT機器を利用し、生徒のタブレット端末利用頻度を高めていきたい。</p> <p>(3) 次年度も基礎学力を定着し、大学入試に対応できるまでの英語の総合力を育成することに尽力したい。</p>
		大学入学共通テストに対応するための技能を育成する工夫を図る。	共通テストで頻出の「言い換え」を教科書の中でも生徒に意識させることができた。	A		
		授業内のコミュニケーション活動を充実させる。	ALTとのTeam Teachingを活用できた。	A		
		家庭学習、休業中の課題にサイドリーダー等を活用して多読の指導を行う。教材を精選し、様々な話題に触れさせることで視野の拡大に努める。	精選した教材を使用することで、多読及び精読する英語力の向上が見られた。	A		
		小テスト・考査等を利用して語彙・文法・構文の定着を図り、表現力を高める一助とする。	計画的な小テストの実施により語彙力や文法力などの基礎力向上を図った。	A		
		英検等の資格検定にも積極的に取り組み、意識を高める。	英検準会場となるのは第3回のみであるが、SCBT等を利用して受験している生徒もいる。	A		
	授業におけるICT活用方法を模索する。	Googleアプリを利用した小テスト等を実施した。	A			
家庭学習習慣の定着。	・学習課題の提出・点検及び授業の予習の徹底を図る。	課題の提出については概ね達成することができたが、授業の予習については更に改善の余地がある。	A			
	・学習が不十分な生徒については補習等に対応する。	習熟度別の課外等で対応した。	B			

家庭	自立した生活者に必要な基礎的・基本的な知識と技能を育成する。	実験や実習、観察や調査など実践的・体験的な学習活動を計画的に実施する。	各単元で計画的に実験や実習、観察や調査を実施した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯を見通して生活を創造する資質・能力を効果的に育成するために、他の教科と連携し、教科横断的な授業を行なっていきたい。</li> <li>(2) アカデミックスキルを育成するために、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する学習活動を増やしていきたい。</li> </ul>
		単元ごとの確認テストや技能試験を計画的に実施する。	単元テスト6回、小論文テスト6回、裁縫の実技試験、調理の技能試験を実施した。	A		
	生涯を見通し、世界に目を向け、生活上の課題を解決するための実践力を育成する。	生徒がICTを活用しながら主体的・対話的に学習する場면을効果的に設定する。	学習者用端末を使って取り組む課題の充実を図った。	A		
		生徒が考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する場면을効果的に設定する。	ペアワーク、グループワーク、レポート発表、動画発表、スライド発表など、さまざまな活動を導入し、言語活動の充実に努めた。	A		
様々な人々と協働し、生活を主体的に創造しようとする態度を育成する。	生徒が家族や地域社会の方々と協働し、家庭や地域社会をより良くするための活動を主体的に実践できるような環境を整える。	生徒主体の学校家庭クラブ活動を年間通して展開した。地域の方を講師として招聘し、認知症サポーター養成講座、子育て理解教育講座、着装講習会を実施した。生徒が地域で活動できる環境を整え、亀城公園で幼児や小学生と一緒に遊ぶ活動、演劇会の運営サポート、子育て支援施設での乳児の見守り活動への参加を支援した。	A			
			A			
情報	情報モラルと情報に対する自己責任の育成を図る。	教科書や情報モラル副読本、新聞記事やネット上のニュース等を教材にして、情報モラル、情報セキュリティ等、情報社会において求められる基本的な心構えを身につけさせる。	・情報モラルについては、犯罪につながるような事例について解説した。リテラシーも時間をかけて指導した。 ・携帯電話、スマートホンの使い方やマナーについて指導した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新入生の学校におけるタブレット導入時期を早め、グーグルドキュメントやスライドの操作方法等の指導を早期に実施したい。</li> <li>(2) 授業を通して、情報モラルの観点から、スマートフォンの使い方やマナーについて身につけさせる。</li> <li>(3) 3年生の共通テストに情報が入るので、そのための対策と指導に取り組む。</li> </ul>
		コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	各自が持つタブレットで情報の収集・処理をさせることで、グーグルスライドによる探求の課題に取り組ませた。	A		
	情報を主体的に活用する能力を育成する。	各種ソフトを使用しながら、ICT機器をコミュニケーションツールとして活用する能力の育成を図る。	タブレットを使うようになったので、今までのようにOfficeソフトに時間を取ることはなくなった。	B		

教       務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	学習指導要領を適正に運用するとともに、本校の特色を生かした教育課程の実現に向けた検証・改定を行う。	新学習指導要領を適正に運用するとともに、本校の特色を生かした新しい教育課程（選択科目「倫理」の導入等）を編成した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業改善チームと連携した授業改善の取り組みを加速させることが急務である。そのためには、教職員一丸となった取り組みが不可欠である。</li> <li>(2) 授業におけるICT機器および環境の活用を促進を、より具体的・実践的に進めて行く段階に至った。他校や先行事例についての情報収集もふまえて、積極的にトライしていきたい。</li> <li>(3) 教育課程については、新制度による入試等の動向に鑑み、現状の検証を十分に行い、必要に応じて柔軟に形を変えていく必要がある。</li> <li>(4) 校務の効率化が多方面で進行している中、さらに状況を精査し、働きやすい環境の構築を目指す必要がある。</li> </ul>
		教員相互の授業公開等を通して、授業力の向上に努めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業への改善を図る。	教員相互の授業公開、教科会等を通して、授業力の向上に努めた。ICT機器やひとり一台端末等を活用し、新学習指導要領に対応できるような授業への改善を図った。	B		
		各学年、各教科との連絡を密にし、授業時間の確保に努める。	学校行事等の確認調整を行い、授業時間確保に努めた。	A		
		各教科において年間指導計画を作成し、その活用を図る。	年間指導計画にもとづいた、指導計画の徹底を促した。	A		
		「総合的な探究の時間」の導入に伴い、「探究学習」について研究を行い、ICTを活用しながら各学年と連携して実施する。	本年度新設された探究部に移管した。	A		
	適切な行事計画を作成し、教育活動の円滑な実施に努める。	人権教育や特別支援教育に関する啓発を推進する。	職員研修等を実施し、職員の意識向上に努めた。	A		
		学習と部活動・学校行事とのバランスを考慮し、学校行事の精選を進め、土曜課外を含めて教育効果の高い年間行事計画を作成する。	各分掌・学年と企画調整を密に行い、年間行事計画を適宜修正した。	B		
		学校評価の結果から問題点を検証し、より良い教育活動の改善を図る。	学校評価アンケートの結果を共有し、教育活動の改善に反映させた。	B		
		中学生対象の学校説明会において、動画等を活用し、中学生・保護者にわかりやすく充実した説明会を実施する。	本校生徒による説明を中心とした内容にあらため、参加者にとってより身近でわかりやすい構成とした。	A		
		いばらき教育の日の公開授業や各種説明会を通じて、教育内容の広報に努める。	併せてホームページによる発信も積極的に行った。	B		
事務処理の効率化を図る。	情報部と連携し、校務運営システムを適切に活用し、成績処理、成績一覧表・通知票等の処理を円滑かつ確実にを行う。	入力にあたっての確認を徹底した。また、個人情報等の取り扱いへの注意喚起を徹底した。	B			
	奨学金等に関する広報活動・事務処理を的確に行う。	kintoneでの発信も含め、迅速な広報に努めた。また、事務処理が遺漏なく行われるよう、細心の注意を払って臨んだ。	A			

進 路 指 導	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導を通して、一人ひとりの生徒の進路希望の実現を図る。	進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の現況を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて、各学年に対して適切な進路・学習指導をサポートする。	スタディサポートと模試結果による現状把握に努力し、学年をサポートした。各教科との連携を一層強める必要がある。	B
		個々の生徒の進路希望や能力を把握して適切な進路指導につなげられるよう、時期に応じた個別面談・指導の実施を促す。	各担任が丁寧な面談を実施し、生徒の把握に努力した。	A
		公開講座やオープンキャンパス等の情報を提供して参加を促し、大学や学問研究に対する早期の意識付けを行う。	kintoneとformsを活用することで、担任の負担軽減を図ることができた。	A
	学年との連携協力の下、進路に関する行事を計画・実施し、生徒の進路意識の高揚とキャリア教育の推進を図る。	3年間を見通した行事を計画し、「キャリアガイダンス」、「ワンデーカレッジ」等の進路関連行事を有意義なものとし、キャリア教育を推進する。	学年ごとに計画し、生徒の実情に応じた行事の実施をすることができた。	A
		生徒・保護者対象の進路講演会を適切な時期に実施し、ICTを活用しながら最新の有用な進路情報を提供する。	対面の講演だけでなく、ウェブ等を活用することで利便性が向上した。	A
	生徒一人ひとりの学力の伸長を図るとともに学年との連携協力の下、入試や模試の分析を行い、適切な進路情報を提供する。	「進路ナビゲーター」や「進路便り」を発行し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	学年ごとの発行から、1・2年版と3年版の2種類に整理し、内容の見直し・精選を行った。	A
		多様な入試制度に対応するために、面接・小論文等の対策について学年を越えた指導を充実させる。	国語科の先生方を中心に、学年の枠を越えて対応した。現体制での実施は厳しくなることが予想される。	A
		家庭学習時間の確保のため、各学年や各校務分掌等との連携を図りながら方策を検討する。	課題・宿題の内容、量、時期については検討の余地がある。	B
		各学年と連携しながら課外授業（平日・土曜日・長期休業中等）、模擬試験を計画・実施して、一層の学力向上を図る。	本格的に模試の平日実施が導入され、模試の精選・内容の検討が進められた。授業確保と学力向上の方策を検討する必要がある。	A
		多様な入試制度を整理・分析し、生徒との面談に活用できる適切な進路情報を提供する。	年内入試の希望者が例年並みであったため、特別な対策は実施しなかったが、今後は増加が予想されるため、準備を進めた。	A
入試結果・模試結果を多面的に分析し、各学年や各教科の学習指導・進路指導の改善に寄与する。		学年・教科との連携には課題が残る。「例年通り」という流れを見直す時期である。	B	
各予備校等の教員対象の授業・研修情報を提供し、教員の授業力、受験指導力の向上に寄与する。		参加できる研究会にはできる限り参加し、情報収集に努力し、学年に提供した。先生方の積極的な参加を促したい。	A	
教員対象の進路研修会を実施し、今後の入試制度の変化に対応するために教職員全体で研究を進める。		学年ごとに分析会を実施し、課題の把握と対応について検討した。課程が切り替わるタイミングなので全体の研修は実施しなかった。	A	
高大接続改革及び大学入学共通テスト等に関する研究を継続し、保護者・生徒、教職員への情報提供を適宜行う。	年内入試の増加に対する対策の検討を進めた。情報を整理し、先生方に提供した。	A		

A	(1) 教育課程が変わるタイミングであり、来年度以降の入試について情報収集し、早めの対策を講じる必要がある。生徒だけでなく指導する教員側もその仕組み・内容について理解することが肝要である。
	(2) 授業時間確保の観点から休業中の課外の内容・編成や、行事の見直しも考えていかなければならない。
	(3) 茨城県では国公立の合格者数にこだわりがあるが、他県ではその傾向は弱い。生徒の適性・希望を汲んだ指導の深化を図るべきである。

生徒指導	規律ある生活態度や社会規範を順守する態度を育てる指導を、全教職員の共通理解のもとで推進する。	HRや特別活動、学校行事、授業等様々な場面において、挨拶と身だしなみを意識して指導し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	今年度は120周年の年でもあり、校訓の「明るく、ゆかしく、和やかに」をテーマに学校生活の充実や身だしなみを整えることの大切さを各学年の先生方の協力の下、徹底することができた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 服装の指導に関しては、学年間で指導の差異が出ないよう、指導部主導で指導の仕方を徹底する必要がある。</li> <li>(2) 自転車の乗車マナーに関する地域の要望が多いので、日頃から規範意識や公共心を育む指導を工夫する必要がある。</li> <li>(3) ICT機器を利用した調査での回答率を高める。</li> </ul>
		着こなし強化週間やさわやかマナーアップ運動等を通して、その意義を十分理解させ、生徒自ら規範意識の向上を図れるようにする。	着こなし強化週間等を通して、規範意識の向上を図ることができた。	A		
	安全への意識を高め指導を推進する。	校内の決まり事や公共マナーが守られているか、常にチェックする意識を持つ。	セーターやカーディガンの着用について正しい着こなしを周知した。	A		
	教育相談体制の充実を図る。	交通安全週間、長期休業明け交通安全指導時には、改めて交通安全の意識を持たせるように努める。	今年度は8件の交通事故の報告があった。また、自転車の乗車マナーについてもお叱りの電話があった。	B		
		警察や関係機関との連携を密にし、不審者情報や交通事故情報等を迅速に提供する。また地域の方々から信頼を得られるように交通安全及び防犯意識を高める。	年に3回の学警連会議で情報交換を行った。また、今年度は全学年で「いばらきポリス」アプリの導入をすることができた。	A		
		カウンセラーや環境保健部と連携し、生徒・保護者・教職員の要望を反映しカウンセリング活動の充実を図る。	今年度も29回のカウンセリングを行うことができた。保護者のみのカウンセリングも実施し、サポート体制を整えることができた。	A		
		ICTを活用して各学年からの生徒指導上の問題点や意見をとりまとめ、生徒指導の充実を図る。	ICT機器を利用し、自転車保険加入調査やヘルメット着用調査を行った。	B		
		研修会や情報交換会の内容など生徒指導に関する内容を提供する。	SCやSSWの研修会を実施した。	A		
		携帯電話・インターネットの安全な利用について周知させる。	面談資料を通じて「闇バイト」等の危険性について注意喚起した。また、「SOSの出方」についても資料を配付した。	A		

特別活動	生徒の豊かで、充実した高校生活のために、学年や他分掌と協力して実施する。今後の部活動のあり方を検討する。	運動部活動の地域移行が進む中で、それに対応できる環境を整えておく。また、生徒や顧問にとってより良い今後の部活動のあり方を検討していく。	新たな部活動運営方針に基づき、各顧問がより良い部活動の在り方を考えることができた。	A
		部活動環境の改善に向けて、各部からの要望を集約し、予算要求をしていく。	受益者負担を考え予算作成方法を検討した。	B
		部活動の学校外指導者を積極的に活用出来るように要望は続けていく。	昨年度同様活用することができた。	A
		各部の顧問と協力して、部室の管理や清掃の徹底を図る。	部室回り清掃分担当表を作成し実施することができた。年二回の一斉清掃を実施した。	A
		充実したHR活動が実施できるよう、各学年との協力関係を築いていく。	各学年職員と協力して実施し、キャリア力育成に努めた。	B
	HR活動の充実。	HRにおいて「キャリア・パスポート」を活用した記録を用いた話し合いや意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。	各学年職員と協力して実施し、キャリア力育成に努めた。	B
		体育館及び他の施設の使用の調整を図る。	利用するクラスがほとんどいなかった。	B
		特別活動の記録や広報活動の充実を図る。	壮行会・伝達表彰等を通して、生徒の活動の成果を積極的に発信していく。	通常、体育館で行う壮行会や伝達表彰は対面ではなかったが、オンラインで実施できた。
	部活動や行事の記録及び写真を保存し、広報活動や今後の活動に役立てる。		各行事でPTAの広報係等と連携写真を残すことができた。	A
	生徒会誌の記事の内容の充実を図る。		生徒会誌を発行することができた。	A
	部活動の活動状況や成果をホームページ等で積極的に公開していく。		部活動の活動状況、成果の掲示が少なかった。	B
	特活行事の運営方式・日程・内容等の検討を行う。	各種行事の日程や実施方法は随時検討し、より充実した学校行事を目指す。	行事の検討や実施方法について、生徒会役員や執行部との話し合いを繰り返し行うことができた。また、行事のしおり等をクラウド上で見られるようにした。	A
		定期的に生徒会役員との打ち合わせを実施し、生徒会活動の活性化を図るとともに、行事の企画力の養成を図る。	行事の検討や実施方法について、生徒会役員や執行部との話し合いを繰り返し行うことができた。また、行事のしおり等をクラウド上で見られるようにした。	A
		生徒会活動の年間計画を作成し、ICTを活用しながら、より充実した内容とするための方策を講じる。	行事の検討や実施方法について、生徒会役員や執行部との話し合いを繰り返し行うことができた。また、行事のしおり等をクラウド上で見られるようにした。	A

A

<p>(1) 部活動運営方針の改定に基づき、まだまだ検討していく必要がある。</p> <p>(2) 部活の予算作成に関してより良い決定方法を検討していく。</p> <p>(3) 部室回りの清掃や活動場所の清掃、部室の管理など今後も検討していきたい。</p> <p>(4) 部活動の成果の公開等を積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>(5) 各行事の検討や運営を生徒会役員、執行部等が中心で行っていただけるように、話し合いを充実させていく。</p>
--

図 書 館	図書館の利用促進と委員会活動の充実を図る。	図書を充実させる。	今年度は特に、「探究」に活用できる図書の充実に力を入れた。また、生徒や保護者の方から、他の図書館にはない本も本校の図書館にはあると好評をいただいた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員会活動においては、生徒主体で活動できると良い。</li> <li>(2) ICTを活用した授業ができるよう機材等環境を整えたが、利用するクラスが少ない。アピールが必要である。</li> <li>(3) 一般書架の本が窮屈になってきたので、倉庫に移動する作業をしたい。</li> <li>(4) 廃棄本処理が今年度で終了予定。来年度は蔵書点検をしたい。</li> </ul>
		生徒による委員会活動を活性化し、学校図書館運営に主体的に参加させる。	図書委員の月1回の定例会も定着してきた。図書委員研修会にも積極的に参加した。	A		
	図書館の機能充実を図る。	土浦市立図書館との連携を強化する。	土浦市立図書館との連携事業では、読書週間イベントとして毎年、「歌って♪おはなし会」に参加している。来年度は土浦市立図書館が100周年を迎えるとの事で、すでに「おはなし会」の依頼を受けている。	A		
		ICTを活用しながら「探究活動」を行うことができる図書館にする。	必要な機材も揃え、授業で活用してもらえようように環境を整えたが、利用が少ない。	B		
館内の環境整備を図る。	本の整理整頓	借りる頻度の高い本や一般書架から分けた方がよい本を別置き、色分けシールで分類した。また、DVDなどの視聴覚教材も整理した。	A			
	本の廃棄	司書室倉庫内の古本を3年かけて廃棄した。本年度中には、終了予定である。				
	蔵書点検	廃棄本が数多くあり、蔵書点検を見合わせていたが、来年度には行う予定である。				
環 境 保 健	学習環境の整備	清掃徹底週間を適宜実施し、特にトイレと手洗い場の清掃徹底を図る。	学校行事の前に連絡をし、清掃徹底週間を実施することができた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保護者面談等、外部の方が来校する前の週は、清掃を徹底させたい。</li> <li>(2) 夏や冬は換気がされないことが多いので引き続き実施を促す。また、エアコンの設定温度が適切でなく、体調不良で保健室に来室する生徒が多い。</li> <li>(3) 円滑な健康診断の実施のために、生徒のプライバシーを守りつつ、全職員で各種健診を行うことができるようにしていくことが大切。</li> <li>(4) 身体測定実施時期と実施方法の再検討をしていく(体力測定と絡めて)。</li> <li>(5) 避難訓練は早めの時期に実施したほうが良いのでは。訓練用消火器等の事前準備に時間の制限があるため、余裕を持って実施日を設定する。</li> <li>(6) 地域との連携を図る良い機会なので、今年度のような形で避難訓練を継続していく。</li> <li>(7) 年度初めの避難経路、連絡網だけではなく、緊急時のフローチャートを作成しておくことも大切。</li> <li>(8) 緊急時によりよい対応ができるように、職員の研修を行うと良い。</li> </ul>
		教室の空気環境改善のため、天窓+対角線上の窓の開放と壁掛け扇風機による空気の攪拌を促す。	授業時に教員から窓の開放を指示したが、十分には実施されてない教室もあったと思う。	B		
		エアコン、ストーブの使用上の注意事項を守るよう指導する。	エアコン、ストーブ使用開始時期の前に、担当教員から各クラスに指導をした。	A		
	疾病予防と健康管理能力の育成	疾病予防教育の充実と、欠席状況を迅速に把握し、ICTを活用しながら感染症蔓延防止に取り組む。(健康チェックの入力の徹底)	kintoneでの情報収集と、感染症情報収集システムを活用して、地域の状況を踏まえて手洗い、換気等呼びかけた。	A		
		感染症対策をしながら、各種検診・検査を合理的かつ円滑な進行できるよう工夫する。	換気を行いながら、全教員の協力の下、整列の仕方を工夫し健診を行った。	A		
		保健室利用状況の円滑な伝達。	kintone、保健日誌等での伝達を行った。	A		
		1年生に対する歯の健康指導と性教育を充実させる。(感染予防のため、オンラインの利用も検討する。)	1学年職員の協力の下、円滑に実施した。	A		
	防災意識の向上と地域との連携	避難経路を年度初めに周知徹底する。また、改善すべき点を検討し、見直す。	年度初めに部会で検討し改善を加え、4月に避難経路確定。キントーンにて教職員に配信し避難経路の確認、点検を行った。	A		
		避難態度を一層向上させ、安全かつ迅速な避難誘導方法を工夫する。	各クラスの安全委員を中心に避難方法・態度を徹底。校舎から外に出たところの避難誘導の教職員の配置を増やすなど誘導方法を考えて実施した。	A		
		避難訓練に於いて、感染症対策をしながら、生徒と周辺住民とが協力し合える訓練形態を工夫する。	地域との連携による防災力を高めるため、近隣住民の参加を促し(立田町区長さんの協力のもと)6名が参加。	A		
職員緊急連絡網を随時更新する。		4月確認し、連絡網を配信。年度途中の更新はなし。	A			

渉外	家庭、地域、学校との協力体制をさらに強化する。	P T A評議員の活動を活発化し、ICTを活用しながら、生徒指導部と連携して、校外指導を実施する。	評議員会をコロナ禍以前の形態に戻し、3年ぶりに活発な活動を行うことができた。	A	A	(1) コロナ禍が収束し、従来のPTA活動が復活しつつあるが、コロナ以前に戻すことがベストと考えるのではなく、新しい持続可能なPTA活動を模索し、新しい形を創造していければと思う。 (2) PTA支部会の今後のあり方について検討し、支部会の存続を含めて議論を深めていきたい。
		土浦市高P連と連携し、早朝街頭指導、年末街頭指導へ積極的に参加する。	11月1日のさわやかマナーアップ運動も以前のように活発なあいさつ運動ができた。	A		
	保護者に学校の情報を積極的に提供し、教育活動への理解と協力を図る。	P T A総会への出席者数を増加させる。	3年ぶりに対面形式の総会を復活させ、438名(約47%)の出席を得た。	A		
		支部会・研修視察等のP T A主催行事の充実を図り、参加者を増加させる。	研修委員会で大規模な進路講演会を行った。	A		
	尚綱同窓会、P T A O B会に本校の情報を積極的に提供し、学校への関心を高め、教育活動を積極的な後援の推進を図る。	P T A評議員を実行委員として、あゆな祭のバザーへ保護者の積極的な参加を図る。	あゆな祭でのバザーは中止とした。	C		
		土浦二高P T A広報紙「であい」を年2回発行し、本校の教育活動を良く理解し、積極的な後援の推進を図る。	広報委員会の活動で、例年通り2回の「であい」を発行できた。	A		
		尚綱同窓会及びP T A O B会と連携を密にし、積極的に学校への後援体制の推進を図る。	同窓会とは密に連携を取っているが、PTA0B会はその存在意義と効力を失っている。	B		
情報	情報発信の充実。	ホームページの充実と迅速な更新に努め、広く情報を発信する。	ホームページの充実と迅速な更新に努めた。部活動の報告など特別活動部の協力を得て、充実を図った。	A	A	(1) 3学年すべてが観点別評価になる来年度は、校務支援システムをスムーズに運用できるようにしたい。 (2) 今後考えられる電子黒板、教師用タブレットなど経年劣化による不具合など迅速に対応したい。 (3) ICT教育の充実を図る。
	校務支援システムの安定した運用。	教務部との連携を図り、校務支援システムの円滑な運用を行う。	教務部との連携を図り、概ね良好に利用できた。	A		
		校内ネットワークの安定した運用管理と保守を行う。	概ね良好に運用できた。			
	校内ネットワークの整備とセキュリティ管理。	個人情報の保護と情報管理の徹底を図り、セキュリティ向上に努める。	情報セキュリティ実施手順の充実を図り、情報管理の徹底に努めた。	A		
		情報機器の管理と整備を進める。	情報機器の管理と整備を今後も継続して努める。			
学習端末の導入活用。	電子黒板等ICTの活用の補助。	授業等で概ね良好に利用できた。	A			
	新1年生から導入の学習端末の活用の補助。	昨年度より利用はスムーズに行っている。				
探究	継続的な指導計画の作成	土浦二高や地域の実態に応じた、3年間を見通した継続的な指導計画を作る。	昨年度までの実施状況や新課程での変更状況などに対応して指導計画を作成している。	A	A	組織的な指導体制づくりに課題を抱えているので、次年度に解消できるよう努めたい。
	組織的な指導体制作り	生徒が主体的・協働的に探究活動を行えるよう、全教科職員による協力体制作りを目指す。	「探究実践」におけるアドバイザーの全職員への分担は今年度は実施できなかった。部内の学年担当者が各学年での運用における指導体制構築に尽力した。	B		
	探究活動の適切な評価と表現活動	言語活動や学習状況の観察による、学習の過程を日常的に評価するとともに、活動の過程や成果のプレゼンテーション等、表現の機会を作り、交流を通じた対話的な学びを推進する。	各授業時間ごとに生徒の相互評価や、担当職員との実施状況に関するやり取り等こまめなフィードバックを行うとともに、長期休業中の課題に関する発表や、進捗状況や中間発表でのプレゼンテーションなどを行った。	A		

事務室	施設設備の安全確保と学習環境の整備。	校舎内外の巡回を行い施設設備の使用目的、使用状況を多面的に把握して、教育環境の適正な整備を行う。	教室黒板の更新（3年計画の2年次）や教室カーテンクリーニング、エレベータ設置等の教育環境を整備した。	B	B	予算の関係で、一度に整備等ができないため、まだ手つかずの分野への予算確保と計画的な整備が必要である。
	予算の効率的・効果的な執行。	適正な学校運営のため、管理職や教職員等と連携を図り、ICTを活用しながら学校予算の効率的・効果的な執行を行う。	連携を密にしながら的確に予算投入を図った。	B		
第1学年	予習、復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	学習時間調査、個人面談の実施。	高校型の学習サイクルが確立できるよう、学年集会や個人面談を通して話をする事ができた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習習慣の確立・定着と学習時間の確保。</li> <li>(2) きめ細やかな個別面談を通じた進路・生活指導</li> <li>(3) 校外模試の有効な活用。</li> <li>(4) 成績層別による学習指導。</li> <li>(5) 様々な理由で欠席しがちな生徒に対する支援。</li> </ul>
		適切な学習課題の提示、小テストの実施。	全体の課題の量を調整し、生徒達が自ら課題を設定できるよう工夫した。	A		
		各種課外の実施、外部英語検定、海外研修等への対策、サポート。	平常課外・長期休業中課外など、英数国を中心に精力的に実施した。	A		
	新教育課程、入試改革への対応。	主体的、協働的な「探究」を実現するICTを活用した授業づくり。	探究の時間の様々な場面においてICTを効果的に用いることができた。	A		
		自分の考えを可視化し、論理的にわかりやすく伝える力の育成。	探究の授業内で「ミニ探究」を実施した。関心のあるテーマに基づいて自分の問いをたて、スライド作成をした。9月にクラス発表会、学年発表会を実施することができた。	A		
		「探究」含め、あらゆる授業におけるICT（タブレット等）の積極的活用。	探究の時間だけでなく、理科の授業などでICTを積極的に活用した。	A		
		活動履歴の作成等、新方式の入試に対するサポート。	ベネッセ提供の新課程入試科目電子ブックを活用し、新課程入試の科目調べなどを行った。探究の時間で学習したものは探究ファイルに綴じ込み、ポートフォリオとして記録を残している。	A		
	確かな職業観の育成と適切な文理コース分け。	個人面談、保護者面談の充実。	個人面談を頻繁に実施し、生徒理解に努めた。	A		
		各種講演会、説明会、各種課外の実施。	ベネッセによる文理選択に関する集会を実施した。また性に関する講演会やスマホ安全講話なども実施した。	A		
		各種ガイダンス、セミナー、オープンキャンパス等への積極的参加の推奨。	職業観育成の一環としてキャリアガイダンスを実施した。また、ワールドキャラバンでは様々な国の方からお話を伺い、視野を広げる良い機会となった。	A		
		校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。	ベネッセ模試を3回実施。河合塾模試を1回実施した。実施後は学年会で分析会を行った。	A		
	高校生らしい服装容儀の徹底。	服装、頭髪検査の実施、及び日々の学校生活、授業中での指導、説諭。	制服の着こなし、身なりを正す大切さなど日々の学校生活で折にふれながら話した。	A		
	規範意識の高揚と道徳的実践力の育成。	HR活動、清掃活動等を通しての、道徳的な判断力や態度の育成。	清掃活動を通して、協同することの大切さ、勤労の価値観を学ぶことができた。	B		
	交通安全指導の充実。	生徒指導部との連携による校外指導の実施。	地域の方から自転車のマナーについて苦言をいただくこともあったので、その都度各クラスでマナーを守ることの大切さを話した。	B		
HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。		防犯アプリの講習会を受講し、危険が及んだ場合の対応などについて学ぶことができた。	A			
心身の健康管理及び教育相談の充実。	S C、養護教諭、保護者等との連携強化。	メンタル面でサポートが必要な生徒に対し、面談やカウンセリングを実施した。保護者との連携も常に密になるよう意識して取り組んだ。	A			

第 2 学 年	既習内容の確実な定着、教科の特性に応じた適正な予習復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	個人面談の実施、小テストの実施。	クラス全員との面談を年間4～5回実施することによって個々の生徒の諸課題に対処することができた。小テストを週に2回実施し、生徒の基礎学力の定着に役立てることができた。	A
		ICTを活用した適切な学習課題の提示。	学年のclassroomを設置し、それを通じて、学年の課題の指示や諸連絡を行った。	A
		小論文指導、英語外部検定対策の継続。	小論文指導を9月末に、英検対策課外を11月末に実施することができた。	A
		土曜課外・夏季課外の実施、充実。	土曜課外は主に問題演習を行い、夏季課外はレベル別に講座を開設するなど、課外の目的を明確にした上で実施することができた。	A
	進路目標の具体化。	オープンキャンパスの積極的活用、探究活動の実施。	フロムページの「夢ナビ講義動画」と関連づけてオープンキャンパスに参加させた。また探究はグループ活動を中心に行い、生徒の主体的な活動の場とすることができた。	A
		各種講演会・説明会・ワンデーカレッジの実施。	ワンディカレッジや科目選択説明会、外部講師による講演会によって進路意識の向上を図ることができた。	A
		校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。	校外模試の結果を学年会に取り上げ分析を行った。ベネッセの模試活用プログラムを使い、模試の目標設置から復習までを意識的に取り組ませることができた。	A
	高校生らしい服装容儀の徹底と規範意識の高揚。	服装・頭髪検査の実施及び日常生活での注意・指導。	頭髪の乱れが若干見られた。	B
	交通安全指導の充実。	生徒指導部との連携による校外指導の実施。	生徒指導部の計画に従い、登下校指導を行った。	A
		HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。	各クラスにおいて、担任が適宜交通安全指導を行った。	A
	心身の健康管理。	S C、養護教諭、保護者などとの連携強化。	S Cや養護教諭から生徒について貴重な情報が寄せられ、生徒に対して有効な支援を行うことができた。保護者とも連絡を密に取ることができ、生徒への理解や支援に役立てることができた。	A
		生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。	担任との個人面談や生徒指導部実施の定期的なアンケートから、生徒が抱えている問題について対応することができた。	A

A

- (1) 学習時間の確保と学習習慣の確立・定着。
- (2) 適切な志望校決定と進路実現に向けた、個別面談等における効果的な指導方法。
- (3) 校外模試の有効な活用。
- (4) 成績層別による学習指導。
- (5) 欠席が多い生徒に対する支援。

第 3 学 年	家庭学習時間の確保。	個人面談の充実（年6回以上）。	模試成績リリース後や三者面談前を中心に個人面談を実施し、学習習慣の改善を促した。	A	A  (1) 来年度、土曜課外の実施形態が変更された場合の、演習時間の確保。 (2) 引き続き模試を平日に実施する場合の授業時間の確保。
	(平日5時間、休日10時間)	進路講演会、模擬試験成績分析会、進路説明会等の実施による動機付け。	個人面談や学年集会での講話を通して、進路実現へ向けての意識付けを行った。	A	
	進路指導の充実。	進路希望に適した授業の充実。	授業時間確保に努め、また、大学入試対応特別時間割により進路実現に対応した授業を実施した。	A	
		進路指導室、資料室、ICT環境等の活用の促進。	大学入試過去問題集(赤本)を豊富に揃え、生徒たちの積極的な活用を促進した。	A	
	国公立大学、難関私立大学への合格者増を目指した指導の工夫及び充実。	課外、探究活動の充実（受験対応講座の実施）。	成績層別課外や、進路希望に応じた探究講座を設定し、その内容の充実に努めた。	A	
		成績層別課題提示等の工夫	成績層別に異なる課題を持たせ、生徒たちの自主的な学びへとつなげた。	A	
		校外模擬試験の実施とその有効活用。	模試成績の過年度・他校比較等も密に行い、指導法の改善に努めた。	A	
		小論文指導の継続	生徒全員対象の小論文講演会・模試の実施後は、進路に合わせた個別指導の充実を図った。	A	
	最終学年にふさわしい服装容儀、挨拶の徹底。	服装、頭髪検査の実施及び日常生活における指導。	普段から教員間で共通認識をもって容儀指導にあたることができた。	A	
	交通安全指導の充実。	生徒指導部との連携による校外指導の実施。	「着こなし強化週間」を中心に生徒指導の充実を図った。	A	
	心身の健康管理及び教育相談の充実。	SC、SSW、養護教諭、保護者等との連携強化。	不安を抱えた多くの生徒に対し、専門の先生の力を借りながら、保護者と協力して対応することができた。	A	
		生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。	生徒の些細な変化も見逃さず、学年会等を通して情報共有を欠かさなかった。	A	

い じ め 防 止	いじめの未然防止。	道徳以外の教科でも相互指導力・協同性・同僚性をポイントに置いた授業を実践する。	ペアワークやグループワークを通して、自己指導力及び自己有用感を育む授業を実施することができた。	A
		HR、学校行事、特別活動の場を利用し、自己存在感を養う。	文化祭やスポーツ大会などの行事を通して、一人ひとりが活躍する場を創出することができた。	A
		生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。	面談やフランクな雑談をすることで、相談しやすい関係の構築に努めた。	A
		情報モラル教育を推進する。	「スマホ安全教室」を活用した。	A
		いじめは必ず起こるという認識のもと、生徒の観察を怠らず、決してサインを見逃さないように努める。	授業だけではなく、部活動の場でも教職員が生徒からのサインを見逃さないように努めた。	A
	いじめの早期発見。	ICTを活用しながら年間3回のアンケートを実施する。	Google Formsを利用し、アンケートを実施した。	A
		生徒や保護者が学校に相談できる関係を構築する。	夏季・冬季の面談を通して、保護者とも相談できる関係を構築できるように努めた。	A
		複数の相談窓口を生徒や保護者に周知する。	SCや養護教諭から生徒についての情報を提供してもらい、共有できた。	A
	いじめの早期解消。	定期的に生徒の様子等の報告会を実施する。	協議委員会時に、各学年の生徒の様子を共有した。	A
		いじめを認知した場合の連絡系統を確認しておく。	定期的な「いじめ対策会議」の開催により、教員間の連携をとることに努めた。	A
いじめを認知した場合まずは実態把握に努め、速やかにケース会議を開き対応を検討する。		速やかに管理職及び関係学年と連携し、「いじめ対策会議」の開催や実態把握に努めた。	A	
インターネットを通じて行われるいじめにも適切に対処する。		いじめに関するアンケート調査を実施した。	A	
保護者と密接に連絡を取り合う。		生徒に関して気になることがあれば、保護者と綿密に連絡を取り合うように努めた。	A	
関係機関との連携。	地域の協力を得ていじめの対応等をする。	学警連の会議に参加し、連携を図っている。	A	
	警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。	学警連の会議に参加し、連携を図っている。	A	
教職員研修。	学校以外の場で起きたいじめに適切に対応する。	いじめに関するアンケート調査を実施した。	A	
	実践的研修を行う職員研修を設定する。	SCによる研修会を実施した。	A	
	事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。	SC及びSSWの研修会を実施し、様々な事例の研究に努めた。	A	
	インターネット環境等に関する研修を計画する。	「スマホ安全教室」を活用した。	B	

A

- (1) 年3回のいじめに関するアンケートをGoogleフォームで実施することができた。出てきた案件に対しては、担任だけでなく、学年、生徒指導部、管理職などチームで対処することができた。
- (2) 常に「いじめは必ず起こる」という認識のもと、未然防止・早期発見を心がけている。